

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

私はこの度 2024 年 8 月 19 日～23 日に John A. Burns School of Medicine University of Hawaii で行われた 2024 Summer Medical Education Institute に参加させていただきました。参加者は、愛媛大学から 3 名、藤田医科大学から 1 名、弘前大学から 9 名、順天堂大学から 1 名、慶應大学から 2 名、高知大学から 2 名、日本医科大学から 1 名、大阪医科大学から 1 名、佐賀大学から 3 名、島根大学から 1 名、東邦大学から 2 名、徳島大学から 1 名、山梨大学から 2 名、横浜市立大学から 1 名の計 30 名でした。

<WS の内容>

○1 日目

PBL (Case1：呼吸器)

身体診察練習（循環器）

シミュレーション

○2 日目

禁煙指導についての講義

PBL (Case2：循環器)

○3 日目

身体診察練習（呼吸器）

模擬患者との医療面接（禁煙）

○4 日目

シミュレーション

気管挿管、内視鏡の練習

模擬患者との医療面接（息切れ）

○5 日目

注射

The August 2024 Summer Medical Education Institute A Program of the John A. Burns School of Medicine Office of Medical Education				
Monday, August 19	Tuesday, August 20	Wednesday, August 21	Thursday, August 22	Friday, August 23
9:00 am (Room 301) Check-in	9:00 am (Room 304) Summary & Preview	9:00 am (Room 304) Summary & Preview	9:00 am (Room 304) Summary & Preview	9:00 am (Room 314) Summary & Preview
9:15-9:45 am (Room 301) Welcome & Workshop Overview	9:15-10:15 am (Room 304) Smoking Cessation	9:15-10:15 am (Room 217) Physical Examination Skills #2, Lung Exam	9:15-10:15 am (StimTiki 2F) Virtual Procedures	9:15-10:30 am (Room 314) Injection Clinic
9:45-10:15 am (Room 301) Introduction to PBL	10:30 am-12:00 pm PBL Case #2, Step 1 with JABSOM students Refer to Google folder for rooms	10:30-10:40 am (Room 203) Standardized Patient Exam Prep: Smoking Cessation	10:15-11:15 am Manikin Simulations	10:30-10:45 am (Room 314) Closing Remarks & Evaluations
10:15-10:45 am Tour of MEB with JABSOM students	12:00-1:00 pm Lunch on your own	10:45-11:25 am Standardized Patient Exam	11:15-11:15 am Virtual Procedures	11:00 am Departure to Aloha Lunch by shuttle bus
10:45-11:15 pm PBL Case #2, Step 1 with JABSOM students Refer to Google folder for rooms	1:00-1:30 pm PBL Step 2	11:35 am - 12:25 pm (Room 314) Cultural Activity with JABSOM students	11:15 am-12:15 pm Lunch (on your own)	11:15 am Aloha Lunch BSide Lounge
12:15-1:00 pm (314) Welcome Lunch with JABSOM students	1:30-2:45 pm PBL Step 3 with JABSOM students	10:30-11:20 am (Room 314) Cultural Activity with JABSOM students	12:30-12:40 pm (Room 304) Cultural Activity (Room 304) with JABSOM students	1:30 pm Shuttle to hotels
1:00-1:30 pm PBL Step 2	3:00-3:30 pm (Room 304) Introduction to the Standardized Patient Exam Smoking Cessation	11:30-11:40 (Room 203) Standardized Patient Exam Prep: Smoking Cessation	1:30-1:40 pm (Room 203) Standardized Patient Exam Prep: Shortness of Breath	
1:30-2:45 pm PBL Step 3 with JABSOM students	3:45-4:30 pm (Room 317) Physical Examination Skills #1, Cardiac Exam	11:45 am - 12:25 pm Standardized Patient Exam	1:40-2:20 pm Standardized Patient Exam	
	3:45-4:30 pm (StimTiki 2F) Simulation Orientation	ALL	12:40-1:20 pm Standardized Patient Exam	
	3:45-4:30 pm (StimTiki 2F) Simulation Orientation	12:35-1:05 pm (Room 314) Video Review	1:30-2:20 (Room 304) Cultural Activity with JABSOM students	
	3:45-4:30 pm (Room 217) Physical Examination Skills #1, Cardiac Exam	1:10-1:30pm (Room 314) SP Exam Review Shortness of breath	2:30-3:15 pm (Room 304) Video Review	
	4:30 pm Group Photo		3:30-4:30 pm (CCS 2F) Escape Rooms	

PBL はやり方は佐賀大学で行なっているものと同じで、英語で行われるため苦戦しましたが、JABSOM の学生に助けてもらいながら話し合いを進めていくことができました。Hypothesis では、Vascular(血管系)、Infection (感染症)、Neoplasm (腫瘍)、Degenerative (変性疾患)、Intoxication(薬物中毒)、Congenital (先天性)、Auto-immune (自己免疫)、Trauma (外傷)、Endocrine (内分泌) の VINDICATE を元に疾患を考えると頭の中で分類しながら考えられ、見落としも減るために非常に良いと思いました。Learning Issue では薬剤の作用機序がよく取り上げられ、その作用機序、副作用、適応、禁忌について調べましたが、佐賀大学での PBL では基礎医学の内容をあまり Learning Issue に挙げる印象がないため少し驚きました。

シミュレーションでは、マネキンを使って救急患者に対する処置を行いました。事前に基

本的な患者の情報が与えられ、グループで協力しながら、心拍数や SpO2、血圧を確認し、SpO2 が低ければ直ちに酸素マスクを行い、看護師役の先生に情報を聞き出しながら疾患を鑑別していきました。

身体診察では心音や呼吸音の聴診や触診について学び、その後の模擬患者さんとの医療面接で実践しました。

注射は、筋肉注射、皮下注射、インスリン注射に見立てた大腿注射を行いました。JABSOM の学生は 1 年生の時に習うそうで、丁寧に教えてくれました。

<留学・学習・国際理解への意欲に関して参加前・参加後での変化>

今回の WS では、ハワイ大学の学生からは勿論、一緒に参加していた日本の学生から多くの刺激を受けました。薬学部を卒業後に再受験して医学部に入った学生や USMLE を目指している学生などもいて、彼らの意欲的な姿勢に感銘を受け、自身の今後の学びに対するモチベーションが高まりました。同時に、他大の 4、5 年生と比較して自分の知識不足を痛感しました。特にシミュレーションの場面では、他の学生が手際良く手技をこなす中で自分は何をすべきか分からず、ただ見るだけになってしまったことがあります。この経験から、自分の知識がそれぞれ独立しており、結びついていないために上手く活用することができていないことに気付かされました。これまで試験に合格するための勉強をしてきましたが、今後は CBT に向けての学習を進める中で、知識の関連性を意識しながらしっかりと学びを深め、実習に臨みたいと思います。

また、人生初のホームステイにも挑戦しました。ネパール系のお宅にお邪魔しましたが、初めは訛りに戸惑い、言葉が理解できず、無表情だったため相手を怒らせてしまっているのではないかと不安になりました。しかし、生活に慣れてきて自分から話しかけられるようになり、徐々に打ち解けていくうちに自分を気遣ってくれるとても暖かい人だと知ることができました。この経験を通じて、コミュニケーションの重要性をより一層強く感じ、もっと様々な国の人と交流してみたいと思うようになりました。

<次の海外留学への関心>

ハワイでは学習面でも生活面でも非常に有意義な時間を過ごすことができ、海外留学への関心がさらに高まりました。行きやすい学生の間に、医学留学、語学留学、海外ボランティアなど、どのような形でもまた挑戦したいと思います。英語に関しては、リスニング力が少し向上したように感じていますが、たった 1 週間での経験であるため忘れないように継続して学習していく、次の留学ではもっと英語でやりとりができるよう精進していくのです。

最後に、このような貴重な経験の場を設けてくださった先生方、学びをサポートしてくださった JABSOM の先生方および学生、そして一緒に参加した日本医学生の仲間達に、深く感謝申し上げます。

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

2024年8月19日~8月23日の期間で、John A. Burns School of Medicine (JABSOM)が主催するプログラムである The August 2024 Summer Medical Education Institute に参加した。今回の参加者は、愛媛大学3名、藤田医科大学1名、弘前大学9名、順天堂大学1名、慶應大学2名、高知大学2名、日本医科大学1名、大阪医科大学1名、佐賀大学3名、島根大学1名、東邦大学2名、徳島大学1名、山梨大学2名、横浜市立大学1名の計30名であった。

本ワークショップは英語で行われ、以下に示すようにPBL、医療面接、実習などのクラスを受講した。

-PBL with JABSOM students (respiratory system: 8/19 /circulatory system: 8/20)

JABSOMの学生がチューターとして進行してくれたが、その進め方に佐賀大学で行うPBLとは少し異なる印象を受けた。佐賀大学では症例シナリオをもとに疾患名を列挙しながら進めていくのに対し、ハワイ大学では、事実からどのような機序で症状が引き起こされたのかを考察し、自分達の知識にないことを learning issues として挙げていくことが目的であるように感じた。これまでのPBLでは疾患を当てることに重きを置いていたため、これからは知識と知識を関連づけたり課題を見つけたりすることに力を入れていきたい。

-physical examination skills (cardiac:8/19 /lung:8/21)

心音や呼吸音の聴診の仕方に加え、patients firstの考え方を学んだ。まず、診察室に入る際のノックで患者さんに第一印象を与えることを知った。そして、今から行う診察の流れを説明して同意を得たのち、身体診察で患者さんの体に触れる前に許可をとることが重要であると学習した。ここで学んだことを今後の実習で実践していきたいと思う。

-standardized patient exam (smoking cessation:8/21 /shortness of breath8/22)

医療面接の様子を別室からモニタリングしてもらい、後にフィードバックを受けるという流れだった。英語での面接は終始緊張したが、授業で練習したワードを使ったり前日に学習した知識をもとに話をしたりと、大変有意義な時間となった。ただ、医療英語を思い出せなかったり、患者さんへの配慮が足りなかつたりと反省点も多々あるため、OSCEで活かせるよう努めたい。

-virtual procedures/manikin simulation: 8/22

Virtualを用いた気管挿管、内視鏡手術用の鉗子の操作、manikinを用いた救急のシミュレーションを行った。どの手技も繊細で的確な操作が求められ、難しい点もあったが、目標に到達し

た時の達成感はひとしおだった。Manikin のシミュレーションでは、心電図モニターのアラームが鳴ったりチアノーゼが見られたりとかなりリアルな現場が再現され、緊迫感があった。その患者の状態をチーム全員で共有し、適切な処置を見出していく工程は非常に面白かった。

-injection clinic: 8 / 23

筋肉注射、皮内注射、自己注射の手技を体験した。丁寧さや慎重さも大切であるが、躊躇わずに思い切って刺すことがポイントであったと思う。JABSOM の学生はこの実習を 1 年生で経験するということを聞き驚いた。

-cultural activity: 8/21,23

水曜日に JABSOM の学生から hula を教えてもらい、木曜日に手作りした lei とともに金曜日の aloha lunch で披露した。初めての hula に緊張していた人も多かったが、易しいダンスを丁寧に教えてくれたおかげで全員が楽しく踊る終えることができた。練習中や作業中はみんなでハワイと日本の文化について語り合い、異文化交流の良い場となった。

-その他 JABSOM の学生、日本の学生との交流

ランチやディナー、放課後のアクティビティなど学生と交流する時間は非常に多くあった。自分の生まれ育った町の話や現在の環境、そして将来の展望まで沢山のことを共有した。海外で働くことを視野に入れている学生も多く、世界観が広がったとともに自分も頑張らなければ良い刺激をもらった。

医学を学び、あらゆるバックグラウンドを持つ学生達と交流し、英語に囲まれて生活をするという大変貴重で内容の濃い 1 週間を送ることができた。その日々の中で、自分の拙い英語力に落ち込んだり他の学生の知識量に圧倒されたりしたこともあったが、今後の成長の糧にしていきたいと思う。また、佐賀大学の他の留学プログラムや外部団体の海外事業などにも積極的に参加していきたいと考えている。

最後に、今回のプログラムに関わった全ての方々に心より感謝申し上げます。

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

留学・学習・国際理解への意欲に関して、留学前後での変化

今回のハワイ大学でのワークショップに参加して、ハワイ以外のアメリカ本土やヨーロッパ、アジア圏など他の地域の医療についても興味が湧いてきた。日本人の参加者の中にはUSMLEの取得を考えている人が多く、スペインやシンガポール、ミラノなどの医学部への短期留学を企画している人もいた。私は地域枠での入学ということもありこれまで将来海外の医療機関で働くことを視野に入れていなかったが、義務年限が終了した後に海外で医学研究に取り組んだり、USMLEを取得したりする道もあるなど考えるようになった。また、JABSOMの生徒は同じ学年の生徒同士で担当を決めて、その時学んでいる診療科の疾患などについてのハンドアウトを生徒が作り、みんなで共有して試験に臨むそうだ。試験はPBLの内容が8割、講義の内容はわずか2割だそう。そのハンドアウト(おそらくLearning issueの課題で作成したもの)をいくつか見せてもらったが、詳細まで分かりやすく系統的にまとめられていて、間違いやすいところ(例えばPTとPTTなど)の覚え方のようなことも自分で考えていて、本当にすごいなと思った。JABSOMの学生は常に能動的に学ぶ意識があり、それが彼らの当たり前になっていた。Brentが朝は学校まで送ってくれて、放課後には様々な場所に連れて行ってくれたが、私たちが授業を受けている間や、ダイヤモンド・ヘッドに上っている間の待ち時間などの空き時間にはカフェや図書館で授業の予習をしていた。私も含め日本の学生は、課題をこなすこと、授業に出て出席点をもらうことをタスクとしていて、受動的な学びだと痛感した。自分で課題や疑問を見つけて学生という身分に甘えることなく、せめて各科の代表的な疾患については完璧に理解できるようにしたいと思った。PBLでは、得られた事実から鑑別疾患としてHypothesisを初めの段階ではできるだけ幅広くたくさん上げ、ページを進む毎に得られる情報を元に論理的に考えて一つ一つ理由を挙げた上で可能性のup or downを決めていくことを大事にしていると感じたので、これからPBLでは私もこの過程を大事にしていきたい。また、日本におけるOSCEで問われるような患者さんに対する問診の仕方や身体診察のトレーニングは基本的に学生が2人組になって行い、1ステップ毎に細かく区切って、新しいステップが加わる毎に初めから手技を繰り返した。みんなが必ず患者役医師役をやり、しかもノックして「May I come in?」というところから何度も繰り返すので学習効果が高いと感じた。日本でまだ習っておらず、ハワイで1回講義を受けた後に4日目に試験があったが、なんとか不足無くこなすことができた。UNIT13で隔週である身体手技の授業も2人一組でやれるといいなと思った。

放課後にはJABSOMの学生がたくさんのおもてなしをしてくれた。学習面でも文化でも毎日初めての体験ができた。とても濃く、あっという間の1週間だった。また佐賀にハワイ

の学生が来たときには、たくさんのおもてなしをしたいと思う。

次の海外留学への関心

佐賀大学では5年生・6年生の病棟実習をしている期間に台湾などに行けると聞いたことがあるが、チャンスがあればぜひ行きたいと考えている。今回は3年生で自分自身の知識や経験が無い中での参加だったので、CBTやOSCEをクリアして、一通りの診療科や身体手技について学んだ上で海外の病院で病院実習に参加するとまた今回とは違ったことを感じられると思う。アジアやヨーロッパなど、地域毎の医療の違いについてとても興味が出てきている。将来日本で働くとしても、様々な境遇の様々な考え方の患者さんや医療従事者と接することになるので、海外で学ぶ経験は視野を広く保ち、何があっても動じないような度胸や積極的に学ぶ姿勢を養えると思う。また、日本で技能実習生として働く海外の方を診られる医師になりたいと以前から考えているが、そのために何ができるか、弊害としてどんな制約があるのか知りたい。今回模擬患者さんと接する機会はあったが、病院を見学することはなかったので海外の医療現場の実際を一度見てみたい。身体手技のトレーニングの際に、声かけや手技の仕方を学んで、アメリカでは医師対患者さんの関係性が対等であることが日本より浸透していると感じた。医師と患者さん、医療従事者の関係性や接し方は日本とどう違うのかとても気になる。